

技術向上と品質確保へ理解深める

鉄筋継手研究会が例会

鉄筋継手研究会の第1回例会が1日、福岡市博多区の福岡商工会議所で開かれた。例会には、ゼネコン、設計事務所、鉄筋工事業の関係者ら約40人が出席し、鉄筋継手工法の技術向上と継手の品質確保に理解を深めた。写真。

同研究会は、時代のニーズ



に伴い進化する鉄筋継手技術の最新情報を共有し、品質と

施工管理を含めた正しい鉄筋継手の理解を深め、最新技術を活用したトータルコストダウンを考慮することを目的とする。事務局を務める河村貴夫九州三協代表は、会の趣旨を説明した上で、「日本鉄筋継手協会の標準工事仕様書が大幅に改訂され、工法ごとの品質・施工管理が複雑化することが懸念される。仕様書のフォローアップも含め、皆さんと一緒に学びたい」と呼びかけた。

続いて、矢部喜堂日本鉄筋継手協会専務理事が「鉄筋継手に関する認証と認定について―鉄筋継手の品質確保のために―」、重本彰戸田建設九州支店作業所長が「工業化手法への取組と鉄筋継手の実例」、降旗達生ハタコンサルタント代表が「建築工事の原価低減の基本①」について、それぞれ講演した。

この中で矢部専務理事は、協会の認証・認定事業や仕様書改訂の趣旨、内容などを説明し、監・管理者に対しては継手位置の明示、優良・A級など継手施工会社の選定、技量資格の確認、第3者による受け入れ検査などを実施してほしいとし、施工者には品質の確実な造り込みと自主管理

・自主検査による信頼の確保を求めた。

研究会では、例会をシリーズ化して実施する予定で、溶接工事の品質・施工監理のポイント、原価低減の実例、建築工事の原価低減の基本などをテーマに2010年6月、12月に開催する予定だ。